

〔曲名〕 Nella Via

路傍にて

〔曲種〕 serenata

セレナーター

〔作曲者〕 T.Toci

T. トーチ

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

この作者に就いても不詳でC.A.Bracco（マンドリンの群の作者）の如く名前すら判っていない。

フィレンツェに在って逸早くムニエル、マルチェルリに注目し、

その出版に乗り出して成功したマウリ（彼もマンドリニスト）から出版されたが、出版番号の若さからみて初期の作者であろう。

この曲の他に唯一つフルート、マンドリン、ギターの三重奏曲で「楽しい夢」綺想曲があり極めて独創的で美しい。

之以外他の音楽部門にも彼の名は見出せない。

本曲は八分の六拍子のセレナータで中程に調を変えて抒情的な部分があり後半快速調となる。

本邦ス楽隆盛時はむしろマンドリン独奏曲として各地に愛奏された。

イタリアのマンドリン音楽が澎湃（ほうはい）と興りつつあった時は街の大通りに漸く電車が走り始めた頃で

フィレンツェの街は夜になると老いも若きも富めるも貧しきも皆楽器（マンドリン）を持ち寄って

此処彼処（ここあそこ）で奏でられたと云う。

今日のように変通ラッシュとこと変り通りを往き交う人もマンドリンを奏でて夜を楽しんだ情景を髣髴（ほうふつ）させる。

1970年5月20日発行

イタリアマンドリン百曲選第5集より